

美學の基礎に就ての考察 (承前)

深 田 康 算

十三

美的形像をして依他的對象と異なりたるものたらしめる條件は大別すれば消極的と積極的との二つ、即ち一は依他的意味の排除、一は感覺内容其自らの意味の高揚である。而して後者は之れを尙細かに分ければ又自ら二つ、即ち一は感覺内容の全體の統一、一は其要素の印象の強さとなる(前節参照)。それ故に美的形像の必然的條件若しくは現象學的特性を吾々は(一)隔離若しくは排除(二)集中(三)強勢 *Isolation, Konzentration, Intensivierung* の三點に約することが出來やう。

一、隔離(排除)

一つの感覺内容が其自らの意味を有して美的形像たり得る爲めには、消極的には總ての依他的意味から隔離され、總ての依他的意味を排除することが必要である。

此の如き隔離若しくは排除の可能なる場合は凡そ次の五つである。

(1) 純粹感覺像 *reine Sinnesgebilde*.

音や色や形の夫々の結合は、聯想的要素が之れ

に附随すること少ければ少き程——換言すれば純粹に直接的要素若しくは感覺的要素のみとして見られ得る程——依他的意味から遠ざかる。是等の感覺像が『表情』として或主觀に關係せしめられず又『記號』として或客觀に關係せしめられぬ時、それは自ら依他的意味から隔離せられる。夫故に純粹感覺像は聯想的要素の附隨せぬことと基く依他的意味の排除の一つの場合であり、又感覺内容其自ら意味を有し得る一つの場合である。而して音樂に於て與へらるゝ所のものゝ主要なる部分は、明らかに此の如き純粹感覺像に屬すると云へるのであらう。音樂の特殊の意義は總ての現實から——從つて總ての依他的意味から——引離されて居る所に存すると云へる。吾々が藝術の立場から例へば色彩を記述する場合に音樂的用語を用ゐ、又總ての純粹感覺像を純粹感覺像として考へる時、之れを音樂的と見做すのは、音樂に於て純粹感覺像が最も著しい役目を演じて居る故であり、音樂的と云ふことが即ち純粹感覺像的と云ふことを代表し得るからである。音の結合及び音樂の有する美的意味は主として純粹感覺像に基くと云へるのであらう。——然しながら音樂の美的

意味が従つて純粹感覺像の有する美的意味が唯依他的意味の排除にのみ基くのではないこと、換言すれば依他的意味の排除は美的意味の現出を容易ならしめるけれども、之れを必然ならしめるのでないことは、音樂に心理的(表情的)意味があり、又客觀的(記號的)意味のあることから明らかである。即ち此場合に於ても已に排除の外集中及び強勢の條件が美的意味の必至條件なることが分かる。

(ロ) 假象性 *Bildlichkeit* 實在と假象、實際と假現との區別は同様なる若しくは類似せる感覺内容が必しも常に其れに基いて取り得る吾々の働き方の同一なるべきことを規定しては居らぬと云ふ事實に基いて起る。詳しく云へば、一定の感覺内容が與へらるゝ時、吾々は之れに基いて或他の一定の經驗の可能を推斷する。一定の感覺内容には自ら一定の他の經驗が附隨し得るものと推斷せられる。そして此推斷に基いて吾々は一定の働き方を取るのである。然るに事實は此の如き推斷の必しも常に當らぬことを吾々に示す。同一様なる若しくは類似せる感覺内容が與へられた時、而して之れに基いて吾々が同一なる一定の他の經驗を可能として推斷する時、吾々は屢或場合には吾々の推斷が當つて居り或場合には吾々の豫想が當らぬことを發見する。さう云ふ經驗に基いて吾々は或感覺内容を實在と解釋し或感覺

内容を假象と評價するのである。例へば吾々に依りて人間と解釋された感覺内容が視覺に與へられて居るとする。若し之れに基いて吾々が下だす處の推斷(例へば櫻かみ得ること)が當つて居るならば、それは實在の人間と評價されるのであらう。若し此推斷が當らぬならば、それは假現と判斷されるのであらう。實在と假現との區別は此の如くにして起るのである。而して此場合人間の姿と見られたものは、單なる假現であり迷妄であり、之れを人間と解釋した判斷は誤りだとせられるであらう。然しながら若し此の如き場合に於て、感覺内容が實在の對象を意味せず、單なる假現なる影を示すものたることが明らかになつたに拘はらず、尙其内容が吾々に取つて全く意味なきものとはならずして、寧ろ特殊の意味を(恰も此感覺内容が通常解釋せらるゝ所の意味と異なつた意味を有すと云ふ點にのみ基いて)有し來るとするならば、此意味を吾々は假象的意味 *bildliche Bedeutung* と呼ぶことが出来る。そして此感覺内容を吾々に與へる所のもの(若しくは此感覺内容を吾々が客觀化した所のもの)を指して假象 *Bild* と呼ぶことが出来る。假象に於ては、夫故に、感覺内容の有する内容的意味と對象的意味とが分離する。對象として當然組込まるべき時間と空間とが、内容として當然組み込まるべき時所と全く別々のものとなる。若しくは、對象に

取つては必然なる現在と接觸と *Gegenwart und greifbare Erreichbarkeit* が内容には缺けて居ると云へる。従つて内容の對象性を豫想する所の依他的意味も亦此處には消滅して、感覺内容其自らの意味が可能となる。總ての假象的なるもの假現的なるものが美的意味を有し得る所以、又假象的假現的なる感覺内容が現實的實在的意味を有する其等に優つて美的たり得る所以は此故である。——然しながら純粹感覺像の場合に於けると同様に、假象に於ても、美的意味は假象性に依りて容易ならしめらるゝに拘はらず、假象性は決して美的意味を必然ならしめるものではない。此事は鏡に寫る影に就て考ふれば明瞭である。鏡に寫る影は假象たるに相違ないが、其意味は飽くまでも實際的である。假象的内容其自身の中に其自ら意味を有し得る性質が無い場合には、假象も亦依他的に解釋せられ、依他的意味領域に組込まれるのである。一體吾々が假象を假象として、像として姿として、換言すれば現實的なるものゝ影として、是れを彼れに關係せしめて考へて居る限り、そは其自ら意味を有する形像ではあり得ない。假象であると云ふ判断は、假令現實的意味と異なりたる或他の意味(即ち假象的意味)の可能を許容するものであり、又假象と見做されたる内容を其儘假現若しくは虚妄として蔑視し去るものではないとは云へ、已に一つの依他的意

味に基く判断なのである。假象の假象的意味を認めしめる経験が美的意味に貢獻する所のあるのは、假象性が依他的意味の一種即ち實在的現實的意味を排除する點に基く。此の如き排除に依りて其自ら意味の現出を容易ならしめる點に存する。而して其自らの意味を有することは、恰も形像を假象と解釋する判断を全然追ひ却けなければ止まないものである。

(ハ)空間的・時間的遠距離 *raumzeitliche Ferne*.

時空的遠隔も亦依他的意味の排除に

役立つ。實際的行動に取つては、吾々に接近して居るそして吾々が之を攫かむことの出來る若しくは攫かむことの出來た物のみが有用であり必要である。曾て有りしもの而して今は最早存在せぬものは、吾々の行爲に取つて對象としての意味を失つたものである。夫故に吾々が時間的に又空間的に吾々に近きものと判断する感覺内容は、吾々より遠き距離に在ると判断さるゝ其れに比して、自ら吾々の直接的能動的反應を惹起し易い、即ち依他的判断を惹起し易い。所謂近距離像 *Nahbild* が遠距離像 *Fernbild* に比して、一層對象的なる印象を生ずる所以は、對象の物象性(即ち攫かみ得ること)を構成する經驗が之れに結び附いて居る爲めであり、其れに依つて實際的行動に關係せしめらるゝが故である。對象の物象性を前提として存在する諸種

の意味は、夫故に、近距離像に依りて惹起され易く、遠距離像に於ては之れに反して是等の諸意味が附隨し難い。其所からして遠距離像は感覺内容其自らの意味を容易ならしめるのである。即ち近距離像と遠距離像との美的意味の差異は、形像としての差異に基くのではなくして、物象の意味が結び付き易いか否かの點に據るのである。遠距離像が遠距離像として必ず美的なるべく、近距離像が近距離像として必ず美的意味を有し得ぬと考ふべきではない。近距離像が若し其自ら意味を有するものとして捕捉さるゝならば、遠距離像よりも大なる美的意味を有することも有り得べきである。唯近距離像に於てよりも遠距離像に於て依他的意味が排除され易い故に、遠距離像は美的に優越の地位を占め得るに過ぎない。之れは空間的距離に就て云つたのであるが時間的距離即ち現在及過去に就ても同様である。斯くして、空間的時間の遠距離は美的意味の現出を容易ならしめるのである。——然しながら、現象的には近く若しくは現在與へられて居る感覺内容を、遠距離に在るもの若しくは過去のものとして判断することが必しも常に依他的意味を排除するものでない事は注意して置かなければならぬ。時間的空間的に遠距離に在ると云ふ判断が、例へば遠距離に在る故に吾々の行動の對象とならぬこと若しくは全く吾々の行動の範

圍外に在ることを意味するならば、それは即ち依他的意味に外ならないのであらう。痛惜や追慕や憧憬の心持を以て過去を顧みる場合には、此の如き時間的遠距離像は云ふ迄もなく美的意味を有するのではない。美的形像は美的形像としては、時間的空間的の(事實上の)遠距離と何等の必然的關係を持たぬ。寧ろ遠距離像は、依他的に時間的空間的遠距離と判断される所の諸経験を排除することに依つて、是等の依他的意味を排除し、従つて感覺内其自らの意味を發現せしめる。其所に美的意味に取つての價値が存するのである。

(二)空間的時間的不確定 *raumzeitliche Unbestimmtheit*. 時間的及び空間的に不確定なる感覺内容、換言すれば、其感覺内容を吾々は理解し得るに拘はらず、吾々の現實的經驗に於ける時間と空間との體系の中に確定したる地位を與へ得ぬ如きものは、自ら依他的意味を有し得ない。何となれば依他的意味は感覺内容に、夫々一定の地位を時空的體系の中に於て指定するものであるからである。夫れであるからして時間的空間的に不確定なることは、依他的意味の排除に依つて、美的意味の現出に役立つと云へる。時間的不確定とは即ち歴史性の脱離 *Funktionsierung* である。時間的に確定して居る感覺内容即ち歴史の如何なる時期に屬するか、明確である所の事

件や人物が、其れの不確定なるものに比して、其自らの意味を有することの困難であることは明らかであらう。例へばフリドリッヒ大王の姿は愛國的歴史的には意味が大きいと共に、美的形像としての効力は、恰も愛國的歴史の即ち依他的意味の大きい丈夫れ丈け)少ないと云はなければならぬ。美的意味を有する言語形像たる文學に於て、物語の時と所とが『或時』『或所に』とか云ふ如き言葉に依つて時空的確定から引離されるのは此理由に基くのである。而して歴史小説の困難なる點も亦其内容を如何にして歴史から脱離せしめ得るか、困難であるのに據る。——然しながら時間的空間的不確定は、其れに依つて依他的意味の排除が行はれ、従つて内容其自らの意味のみが注意されることを可能ならしめる點に於てのみ價值を有するのである。不確定が其儘美的意味を規定するのではない。内容が若し一義的に依他的意味のみを有する如ときものである場合には、其時空的不確定は美的意味を生ぜしめないばかりでなく、却つて其不確定が缺點として無價值として判断されるであらう。『何時』『何所で』と云ふ問は、内容其自らの意味を没却せしめるのである。

(ホ) 異常 *das Ungewohnte*.

併し時空的及依他的に確定して居る範疇に屬し得る如き内容でも、其れが其範疇の中に於ける常規的なる類型と著しく異なつて居る場合

には、其が『異常』である點に於て、依他的意味を排除することが出来る。常と異なること云ふことは畢竟之れを一定の意味體系に組み入れることを得せしめる所の經驗が、其場合に缺けて居ると云ふことに外ならない。即ち吾々の通常の現實的經驗の體系の中へ組み込まれることが困難であると云ふ點に基いて、異常なるものは、依他的意味から隔離されるのである。夢幻的な奇怪なるもの *die Phantastische* は特に此點に於て美的價值を有する。然しながら異常なるもの奇怪なるものが、單に異常として單に奇怪として無意味なるもの、不合理なるものと判斷さるゝならば、それは云ふ迄も無く依他的意味に基いての評價である。夫れ故に、異常なるものが美的意味を有し得る爲めには、依他的意味の排除に伴つて、其れが全く無意味となり終るであらうか若しくは總ての依他的意味の排除に拘はらず、若しくは——に依つて、其自ら意味あるものとなり得るであらうかと云ふことが重要な點である。殊に客觀的に奇怪なるもの *das in Objektiver Bedeutung Phantastische* に於ては、それが其儘直ちに美的意味を有し得ることは極めて、覺束ないと云はなければならぬ。奇怪なるものは、消極的に依他的意味を排除するのみでなくして、積極的に其自ら意味あるものたることを要する。消極的條件の外に積極的條件が無ければならぬのである。

排除が依他的意味の排除に依つて消極的に美的意味を可能ならしめるに對して、集中は感覺内容其自らの意味を引締めることに依つて、積極的に美的意味を高揚する。感覺内容が一つの統一體をなし其各部分が一つの全體に引締められて居る場合には、吾々の興味も亦自ら感覺内容其自らの上に集中する。従つて此の如き統一を示して居る所の感覺内容は其自らの意味を有し來り、美的意味を有し來るのである。依他的意味に於ては、興味の重心は感覺内容の外に在り、時間的には其前に若しくは其後に在るのであつて、吾々の注意は感覺内容其ものゝ上に集中せず、云はゞ其中心から外れて、遠心的に働いて居る。然しながら若し感覺内容そのものゝ中に、之れを構成する夫々の要素をして相互に關係せしめ、又其等の要素をして全體に向はしめる所の因子若しくは動力が働いて居るならば、吾々の興味と注意とは自ら感覺内容そのものへ集中しなければならぬであらう。

(イ) 此の如き集中を必然ならしめる因子の最も簡單なるものは、感覺内容の全體としての統一を可能ならしめる所の『通覽』Übersichtである。與へられたる感覺内容が全體として通覽されることは、之れをして一つの統一體たらしめ、従つて吾々の

興味を之れに集中せしむる一つの條件である。其れであるからして、通覽の可能は美的形像の特性の一つであると云へる。吾々の美的以外の興味は、個々の對象に向ひ個々の對象に懸つて居るのを常とする。其等の個物が空間的に併存することは、單に彼等相互の間の距離を評價する爲めに役立たせられるに止まり、其併存が全體として吾々の興味を惹くのではない。其等の個物の空間的併存が全體として通覽さるゝことは此場合稀なのである。寧ろ普通には空間的併存は直接に感覺内容としては捕捉されず、唯推斷の結果として存在するだけである。現實的興味に支配されて居る吾々の眼は、其興味の指圖に隨つて、先づ一つの個物に注意し、然る後に又他の一つの個物に注意する。若しくは其等の個物の依他的意味を確しかめる爲めに相互を比較する爲めに、一つの個物と他の個物との間を落附きなく往返する。斯くして吾々の眼は云はゞ一つの點から他の點へ順次に移行行くか、或は多くの點の間を急がしく往來するか、孰れにせよ、個々の物に向ふ注意の爲めに、其等が空間的併存に於て有する全體としての關係を閑却するのである。依他的意味の領域に於ては、空間的に併存する個々の物の相互の關係は、感覺的空間的併存の關係ではなくして、判斷的抽象的關係である。吾々の日常生活に於ての『見る』と云ふ働きには此の如く

にして、空間的併存の通覽は存在しないと云へる。然るに、今若し依他的意味を有する多くの内容が、唯一つの感覺的寫象の中に結合して與へられて居るとし、而して其結合が全然他の理由に基くを要せず、單に其一つの感覺的寫象の中に同在して居ると云ふ點丈けに基くとするならば、其等の個々の内容は自ら又其感覺的寫象以外に基く所の意味を有する必要を失ふであらう。個々の内容は此際唯其感覺内容を構成する要素としての意味を有するのみであり、従つて依他的意味を失ふであらう。依他的意味を失つたものとして、是等の個々の内容は、吾々に依つて唯其一つの感覺的寫象を構成するものとして同等に注意せられる。吾々の眼は、其等の個々の物の一から他へ、或は其等の個々の物の間を急がしく、往來することなくして、總てを同時に注意し得る。そして其所に是等の個々の物の見らるゝ所の併存を捕捉し得るであらう。換言すれば一つの感覺内容が感覺内容として注意さるゝならば、其中に含まれて居る多くの個々の内容は依他的意味を失ひ、個々の内容が依他的意味を失ふならば、其等に依つて構成されて居る感覺内容の一つの全體をなす感覺内容として、其等を含む所の全體として捕捉されるのである。而して此の如き全體として捕捉された一つの感覺内容は、それが全體として已に、例へば依他的意味を有するものゝ

量的集合に過ぎぬものに於ての如くに、其自ら依他的意味を有するものでない限り自ら又其自ら意味を有するものとなるのである。

此の如き『通覺』見らるゝ所の併存、若しくは一目の中に收めらるゝことが、遠距離像に依つて可能ならしめらるゝことは云ふ迄もあるまい。依他的意味の立場から遠距離のものを現はすと判断さるゝ内容が、一つの感覺内容に含まれて居るとし、而して此感覺内容が其自ら意味を有するものと見られるとするならば、遠距離のものを現はす内容は、其際遠距離を示すと云ふ依他的意味を失つて、云はゞ吾々に近きものとなるのである。遠きものと近きものとが其自ら意味を有する感覺内容の要素として見らるゝ限りは、空間に於ける距離の遠近として、云はゞはなく、寧ろ感覺内容の全體を構成する部分として捕捉される。遠距離を現はす内容は、遠距離のものと判断さるゝ代りに、而して斯くして感覺内容から脱出して行く代りに、感覺内容の一つの要素と見做される。此の如くにして、一つの感覺内容の中に存在する遠距離の内容は、其感覺内容の全體としての捕捉を可能ならしめるのである。遠距離像に於て通覺が可能なるは此理由に基く。例へば彼山と此川との谷間に川の流れて居るのを吾々は知つて居る。山に登り又は川に下だらうとする時、吾々は此知識に基いて行

動するのである。然しながら此全體の風景は遠方の高い所から之を望み見ることに依つて始めて一日に『見』られる。そして斯く一つの視覚像に集中することに依つて、個々の内容は其價値を失ひ、全體が始めて感覺内容として其自らの意味を有し得るのである。通覽を可能ならしめるものは、然しながら、此の如き遠距離像のみに限らない。之れを可能ならしめるものゝ中特に注意すべきは、縮圖 Verkleinerung である。客觀的に同じ大さを有するものも、視覚像としては種々なる大きさに於て現はれ得る。それ故に多くの内容を唯一つの視覚像の中に收め得らるゝ如くに縮小するならば、夫れに依つて全體の通覽を可能ならしめることが出来る。多くの物の空間的併存は、必しも常に遠方より見られ得るとは限らない。例へば『室内』interieurの如きは、遠距離よりの通覽を許さない、縮圖に依りての通覽があり得るのみである。縮圖は、此の如くにして、實際に於ては唯一つの視覚像には收められず従つて通覽を許さぬ如き内容を一つの感覺内容に集中せしめる。上述からして、繪畫に於て遠距離像の必要なる所以及び吾々が繪畫を見る時視線を動かさずして少しく退いて之れを注視することの必要なる所以は自ら明らかであらう。——若し吾々が、上述の距離的遠隔と形像的縮小とに依りて生ずる統一的感覺内容を、一方を『風景』他方を『室

内』と命名して之れを單なる(集中なき)景色や部屋の内部と區別し、特に此の如き形像を指す術語として使用するならば、之に吾々は美學的意味を有する(換言すれば美的形像を指示する)概念を有し得るであらう。斯かる意味に限定された『風景』Landschaftと『室内』Interieurとは、美的形像の現象學的記述に取りて有用なる概念となるであらう。

然しながら、此處でも又注意すべきことは、排除が集中を不必要とせぬ如くに、集中も亦排除を不必要とはせぬと云ふことである。感覺内容が集中に依つて其自らの意味を高揚する際に、夫れと共に、依他的意味の排除が、やはり之れと相並んで、美的意味の確立の爲めに役立つのである。何故ならば通覽は上述の如くに感覺内容其自らの意味の高揚を可能ならしめるに拘はらず、依他的意味に於ての通覽も亦有り得るからである。例へば將軍が戰場を通覽する場合、或は室内を整頓する爲めに必要な通覽の如きは其れである。——以上同時的(空間的)視覺像に就て述べたことは、大體に於ては、繼時的(時間的)なる視覺及聽覺像に就ても云はれ得る。例へば個々の音としては價值なきものが、一つの連續として聽かるゝ時、其自らの意味を有するものとなる如きは、通覽に依る集中と似通つた原理に基いて美的形像となるのである。

個々の音は吾々をして特に其個々の音に注意せしめ、而して恐らくは其音が何處より來れるかに吾々の考を向けしめるであらう。之れに反して音の連續は例へば雷の轟き渡る音、海潮の音、小川の嘩きの如く、其自ら意味を有する感覺内容として捕捉され易いと云へる。唯同時的視覺像に於けると異なり、繼時的形像に於ては、それが繼起的であり、連續的である點に、集中と逆行し集中を妨げる楔機が潜んで居る。單なる繼續は復歸する所なき一方向への進行として、自ら集中と相反するものと云ふべきである。

(ロ) 上に述べた所は、如何にして、多意味的なる多くの内容を含む感覺内容が『通覽』に依つて兎に角一つの全體として捕捉され、従つて美的意味を有するのであるかに就てである。今若し此の如くに『通覽』に依つて一つの全體と見做さるゝ感覺内容そのものが、已に現象的に一つの統一を示して居り、一つの視覺像をなして居るとするならば、其れが一つの全體として捕捉さるゝことは尙一層確固となるに相違ない。換言すれば『風景』として若しくは『室内』として距離的遠隔に依り若しくは形像的縮小に依り通覽さるゝ所のものが、或は其色の上に於て、或は其形の上に於て已に統一性を示して居るならば、此の如き感覺内容の統一的一體としての結合は、單なる通覽に

依りての結合に比して尙一層固いに相違ない。現象的統一 *Phaenomenologische Einheit* はそれ故に集中の尙一層強められたる場合である。

その第一の場合には、即ち全體として見らるゝものゝ中に含まれて居る個々の感覺内容が其背景若くは地と一樣の色彩を有し、斯くして其環境から抽出する場合である。即ち個々の内容の總てが全内容と同一様若しくは類似の色に依つて統一され、個々の内容の色彩の差異が全體の色調の明暗的分化と見らるゝ場合である。此の如き統一を吾々は調子の原理 *Prinzip der Tönung* と名づけることが出来る。此統一に依れるものが單なる通覽に基く統一に比して尙一層強固なることは明らかであらう。諸種の旋律メロディが同一の音調トナルテ又は同一の拍子リズムに於て結合して居る場合も亦亦稍複雑ではあるがやはり之れと似たものと考へられる。——所謂情趣的統一 *Stimmungs einheit* も亦調子の統一の一種である。個々の内容から惹起さるゝ聯想的精神的因子が全體の内容の惹起す所の其れと同じ調子である場合を指して、吾々は情趣的統一があると云ふ。情趣の上に於て統一のあることは、一つの感覺内容を集中的ならしめ、其所に含まれて居る個々の内容の依他的意味を失はしめ、全體として其自らの意味を有するものたらしめる。之を調子の統一に比すれば、情趣的統一は尙一層固

い統一を生ずると云へるであらう。音樂に就ても同様である。

美的形像の集中の最大限度を示すものは、然しながら、全體として見られた感覺内容が、現象的形像 *Phaenomenologisches Gebilde* の形に於て現はるゝ場合、換言すれば、全體の中に含まれて居る個々の内容が、依他的意味を有し従つて多意味的なるに拘はらず、其單なる空間的併存の形のみによつて、統一せられて居る場合、其點に於て前に述べた純粹感覺像（一、排除の（イ）參照）と同じ趣を示す場合である。純粹感覺像に於て、色や音や形の夫々の結合が純粹感覺的なるものとして其自ら意味を有する如くに、現象的形像に於ては其全體の結合が純粹に單なる感覺的、空間的併存の關係のみに基くのである。云はゞ見らるゝもの *das Sichtbare* が見らるゝ形として統一して居るのである。而して此場合に於ても、一方に於ては、其全體が周圍から獨立して其自身一體をなすことが必要であり、額椽は即ち此の如き目的に役立て居る。其全體を環境から隔離せしめ、或幾何學的形の形の中に切り離す所の額椽は、此の如くに隔離されたる視感覺全體をして其自らに於て集中せしめる。其れと同時に他方に於ては、視覺に與へられたる此平面は、其内側に於ける種々の區分若しくは分化によつて、自ら一つの統一ある形像として組織立てられて居るものでなければならぬ。此の目的の

爲めに役立つ所のものは、全面の基調とも云ふべき明暗及色彩の上に於ける對照や遠近法であり、或は又個々の内容が背景と關係なく唯相互間に於て大きく一定の形に配列せらるゝこと、例へば三角形に或は星形に或は又左右均整的に或は半圓形的に配列せらるゝことである。是等の對照や區分や配列の形に基いて大きく分たれることに依つて、一つの見られたる空間は自ら全體として統一ある組織立てられたる形像となり得る。——繼時的形像に於ても亦之れに相當する集中を認めることができる。例へば節奏の上に於ける集中、即ち——の如く三音の連絡に於て第二音の上に強音度が置かれるならば、前音と後音とを始終とする一つの統一的形像が生ずる。繼時的なる連續的なるものに於て單なる繼續として集中に反對する所の楔機を除却する途は此の如き集中に在る。之れに依つて遠心的意味に向はんとする個々の内容は制御せられ、全體の統一に集中せしめられるのである。之れと同様に、戯曲に於て頂點が中央に置かれ、前半が之に向つての登途とせられ、後半が之からの下り坂とせらるゝ如くに配列せらるゝことは、其劇中に起る個々の事件、殊に最後の幕に於て起る事件の依他的意味を排除し、従つて全體の意味への集中と統一とを可能ならしめる。

上來述べて來た所の集中的結合 *Konzentrierende Verknüpfung* が誘致的(繼起的)結合 *Kausierende Verknüpfung* と異なることは已に明らかであるが、尙此兩者の區別を注意して置くならば、誘致的結合に於ては、前行者は後續者を指示し、必然之を誘致する。此際吾々の注意は總ての運動に於ける如く又總て一定の方向を取る行動に於ける如く、前行者に依つて必然之れに續く所のものに向はしめられる。併し後續者は必しも必然的に顧みて前行者を指さすことをしないのである。夫故に繼起的誘致的結合を示す者に於ては、後續者に向ふ方向に於ては一意味的に明確に規定されて居り例へば個々の視覚内容は順次に甲に依つて乙が規定される。併し斯くして個々の内容は意味を有するに拘はらず、其意味は個々のものゝ有する意味から全體の意味へ向つて成長することは出来ない。寧ろ個々のものの意味はそが押し進められ行く所の目的(終局)に向ふ役目を有するのみである、夫故に其終局のものが其自ら意味を有するものなるか若しくは依他的意味を有するものなるかに随つて、此際に於ては、全體の意味が決定せられるのである。若し終局のものが價值なき場合には、従つて其系列の全體も亦全く意味なきものとなるであらう。さうであるからして、誘致的繼起的系列の中に置かれた個々の内容が有する所の合目的の意味は、恰も依他

的意味に基く一つの全體の中に於て個々のもの有する其れと同様である。此の如き系列に於て個々の内容が有する誘致的意味を吾々は緊張と呼んで居る。そして時としては緊張に其自ら美的意味があるかの如くに考へる。然しながら緊張其者は、云ふ迄もなく、何が緊張さるるか何がしかく強く期待されて居るか、其緊張され期待されて居る所のもの、美的意味に就て何ものをも語るものではない。寧ろ緊張に依つて期待さるゝ所のものは其終局點であつて、此終局點が美的意味を有するものであるか否かに依つて、始めて緊張若しくは其れに基く全系列の美的意味は決定せられるのである。緊張が語る所のものはそれ故に、個々の内容が其自身は感覺内容全體に取つて、何等の意味もなく、唯一定の系列の中に於て其系列の終局、目的點の意味を高めるのに役立つに過ぎぬと云ふことである。之に反して、集中に於ては、個々の内容の其自らの意味が一つに結合する。そして幾重にも意味を有する一つの全體を構成するのである。(未完)